

津市スポーツ栄誉賞受賞
奥野春菜さん

津市長
前葉泰幸

レスリング世界女王 また一人誕生

平成29年11月3日、津市スポーツ栄誉賞を受賞された奥野春菜さんをお迎えし、世界レスリング選手権大会で金メダルを獲得した時のエピソードや、尊敬する吉田沙保里選手への思いを前葉泰幸市長が伺いました。

撮影場所/サオリーナ(メインアリーナ)



した。監督からは、準決勝が終わった時に「どんどん動きが良くなってきているよ。このまま行けるぞ」と、とても心強いアドバイスをいただき、決勝に力を持っていくことができました。

市長 見事に世界女王になりました。まだ18歳ですから、これからシニアの大会でますます活躍されるだろうと期待しています。奥野選手がここまで強くなったのは、一志ジュニアレスリング教室です。

ずっと鍛え上げられてきた技能と精神力があるからだと思います。レスリングをこの教室で始めたのは何歳の時からですか。

奥野 2歳半から始めました。

市長 まだよく分からない頃ですよ。

奥野 覚えていませんね。

市長 故吉田栄勝先生からの指導や言葉で特に印象に残っているものはありますか。

奥野 吉田先生は本当に厳しくて、練習でも私生活でも妥協を許さない方でした。練習では常に攻めるスタイルで、守りはいつか通用しなくなってしまうので、絶対に最後まで攻め続けるというスタイルを叩き込まれました。私生活では整理整頓をはじめ、靴のかかとを踏んではいけないなど生活態度についても厳しく教えられました。

市長 最初に世界レスリング選手権大会のことから伺いたと思います。シニアの世界選手権大会への出場は、初めてだったのですね。特別な舞台だったのでしょうか。

奥野 私はシニアの二つ下の世代のカデット(16～17歳)の世界選手権しか出たことがなかったのですが、シニアの世界選手権は会場が広く、音響もライトも規模が全然違い、すごく緊張しました。

市長 フランスのパリで開かれた今回の世界大会はどんな雰囲気でしたか。

奥野 今までの大会とは比べものにならないくらい選手もスペシャルな人ばかりでした。外国人選手が一番手が大勢出てくる大会なので、未知の世界に飛び込んだ感じでした。

市長 外国人選手を次々と破って決勝まで進めました。準決勝までは相手に1ポイントも与えない、完璧な試合でしたね。

奥野 準決勝までは絶対に決勝に行きたいので点はやらないという強い気持ちがありました。決勝では少し弱い気持ちが出てしまって、簡単に失点してしまう場面もありました。

市長 決勝の相手であるナイジェリア選手は映像を見るだけでも手足が長く、戦い方が違いましたね。外国人選手とは戦いにくい面もありますか。

奥野 ナイジェリアの選手は、ヨーロッパ圏の選手ともまた違う体格で、力の出し方も異なっていました。絶対取ろうと思っていた片足タックルが決まったのでよかったです。

市長 ポイント5対4で逃げ切って優勝されました。栄和人監督からのいろいろなアドバイスもあったと思いますし、吉田沙保里選手からも助言があったのではないですか。

奥野 吉田選手からは当日の朝にメッセージをいただきましたし、会場についてからも「頑張れよ。絶対優勝しろよ」という応援をいただきま

強い気持ちで決勝進出！
狙い通りの片足タックル

HARUNA OKUNO

津市スポーツ栄誉賞受賞 奥野 春菜さん

平成11年3月18日、津市生まれ。栗葉小学校、久居西中学校、久居高校を経て至学館大学在学中。2017シニア世界レスリング選手権大会女子55kg級に出場し優勝。吉田沙保里選手らを輩出した一志ジュニアレスリング教室出身。





市長 教室で吉田沙保里選手とも一緒になる機会が多かったと思いますが、改めてどんな存在でしたか。

奥野 吉田選手は練習中すごく元気で明るくて、一志ジュニアレスリング教室の練習はきつくて辛く感じることも多かったのですが、そんなときこそ声を出して率先して盛り上げていく先輩でした。

市長 後輩からすると吉田さんが作っていく雰囲気はだんだん自分も気持ちに乗ってくるような感じでしたか。

奥野 やはり暗い雰囲気と明るい雰囲気とでは、練習していても技を覚えるスピードなどが全然違います。

市長 その後は久居高校に進学されました。高校時代はどういう練習をされていたか。

奥野 高校時代は少人数の選手しかいませんでした。経験者は私だけだったので、人に教えることもたくさんありました。自分は基礎ばかりを繰り返し練習していました。

市長 女子レスリング選手がたくさん集まる至学館大学へと進まれてからの練習はどうか。

奥野 高校生の時には朝練習がなかったのですが、大学生になってからは朝6時45分から1時間くらい、走り込みと筋トレをしてから授業です。夕方からは

マット練習が約3時間あり、一日みっちりレスリング漬けという感じで、最初は一日が過ぎるのが本当に早かったです。

市長 練習の中身は自分のイメージしていたものと違いましたか。

奥野 予想はしていたのですが、それ以上にきつくて、最初の1週間は記憶がないくらい疲れていました。

市長 1年生から4年生まで、そしてOGも来られますから、それぞれ練習メニューが違うのでしょうか。

奥野 実は皆、同じメニューです。

市長 全員同じなのですか。なるほど。至学館レスリング部のいいところは、どんなところですか。

奥野 練習中に絶対に妥協しない、簡単に諦めないところだと思います。きつい全体練習が終わってからもたくさんの人が夜遅くまで自主練習をして、皆で切磋琢磨しています。

市長 そういう強い気持ちが次の若い選手に伝わっていくのでしょうか。一志ジュニアから大



11月3日、サオリーナで行われた第5回吉田沙保里杯の開会式にて吉田沙保里さん(左)と撮影

学へと進んでこられた奥野さんに、このサオリーナで開催された吉田沙保里杯津市少年少女レスリング選手権大会では指導者としてマットに立っていただきました。子どもたちを教えてみてどんな感じでしたか。

奥野 教えるのは本当に難しいと感じます。細かい部分を伝えるのが特に難しく、伝えているつもりでも伝わらないもどかしさ。自分が教えてもらっているときは、コーチはつらい練習をしないから楽だなと思っていましたが、コーチはコーチで大変なんだと感じました。

市長 どうやって伝えるのか、何を伝えるのかが大事ですね。どんなことを子どもたちに伝えたいですか。

奥野 私はタックルが得意なのですが、タックルに入ってつぶれてしまう子には送り足が遅い子が多いので、足を速く進ませることを特に伝えたいです。

市長 このサオリーナでは、今年の夏にインターハイ(全国高等学校総合体育大会)が開かれます。奥野選手はインターハイ3連覇なんですよ。今後も大学のインカレ(全日本学生レスリング選手権大会)などにも出場なさるのでしょうか、同世代と戦うことは気持ちの上では少し違いますか。

奥野 やはり同世代には絶対に負けられないという気持ちがあるので、シニアの世界選手権に出るよりもプレッシャーはあります。

市長 これまでそのプレッシャーを乗り越えてこられたわけですが、さらに今年の4月にジュニアクイーンズカップ(女子レスリングの全日本大会)が、このサオリーナで開かれます。例年



市長対談は津市ホームページ・市長の部屋の市長対談でもご覧いただけます。

[HP 津市 市長対談](#)

検索



東京の駒沢体育館で開催されていましたが、初めて津市で開催されることになります。奥野選手は出場していただけますか。

奥野 はい、出場します。

市長 ジュニアクイーンズカップに向け、どんな思いでこの故郷津市のマットに立たれるのでしょうか。

故郷津市のマットに凱旋 同世代には負けられない

奥野 ジュニアクイーンズカップは、カデットとジュニア(17~20歳)の世界選手権代表の選考会になっています。私は去年2位に終わってしまったので、今度こそ絶対に優勝して、代表として世界選手権に出られるように頑張ります。

市長 今度は地元津市のマットの上で躍動する奥野選手が見られることを楽しみにしています。最後に2018年の目標や夢、そして2020年の東京オリンピックに向けた思いなどお聞かせいただけますか。

奥野 今年は選考会でもしっかり勝つてもう一度世界選手権の代表になって、世界選手権で2連覇したいです。それが東京オリンピックにもつながってくると思います。

市長 奥野選手は、「勝つためにやるべきことは全部やってきた。後はそれを出し切るだけだ」という強い気持ちを持っていらっしゃると思います。奥野春菜選手の今年の活躍、そして東京オリンピックに向けての夢が実現するように、津市民みんなで応援していきたいと思いますので、ぜひ頑張ってください。

奥野 ありがとうございます。